

# 絵を描くひとになりたかったⅡ



すずはら なずな



体調を少し崩し  
このままではいけない・・・と  
色んな予定をキャンセルし ひたすら 眠ることにした。

ふと、見ると、窓辺にいとばかり思っていた  
うちのねこがソファでうつらうつらしている。

そっと近づいて おなかの下に手をまわし  
頬寄せて添い寝。

ふかふかふか。  
ねこいっぴき こんなにあったかい。

ねことお昼寝。  
最高のぜいたくだと思うのだ。



薄いトンボの羽や蝶の羽 各種の花の雰囲気デザインに取り入れた「花の妖精」。  
そのイメージの源はあの「ハイクラウンチョコ」に入っていたカードだ。

手元にはもう残っていないのだが 懐かしくなって検索してみると  
コレクターの方がいたり、仕掛け絵本があったり。  
一冊欲しい、いやこれも、これも欲しい・・・絵本はため息が出るほど美しい。  
ああ、カード集めて残していたら・・・と とても残念だ。

「何が欲しい？」と聞かれても 特に欲しいものがない、という  
何故だか モノに執着心の薄い子どもだった。コレクションというのには 縁がない。  
父が古い切手帳をくれたのをきっかけに  
3歳上の姉が それぞれ何かコレクションしてみようと提案し  
さて、何を集めようか、ということになった。

姉はマッチ箱の柄が面白い、と言い、少し集めていたように思う。  
学校では可愛いシールや 名刺サイズの紙が3枚、4枚切り取り線につながっている  
メモ紙の交換なんかも流行っては いた。

そんな流行りとは別に 姉のすすめで ノートに貼っていったのが  
お土産のお菓子（お饅頭やおせんべいの類）に入っている「銘菓のしおり」であった。  
これのどこが面白いのかな、と本人も思いながら 少しばかり続けた。  
けれど いつ止めて、そのノートをどうしたかも記憶にない。

ただ 土佐の銘菓のしおりに お菓子の名前の一文字ずつを頭にした詞があって  
それだけは、今でも諳んじることができる。

誰が土佐に行き、お土産をくれたのか、とか  
何かそれに繋がる思い出が残ったとか 土佐について詳しくなったということは  
これまた残念なことに 全くない。



そろそろ 着いたかな・・・。

誕生日カードである。

描こうと思った後 いつも 何をどう描けばいいのか解らなくて  
小学生の時「好きなものを描きましょう」って課題だと ものすごく困ったことを思い出す。

かろうじて テーマ（「誕生日」とか 「秋のたより」） とかはあっても さて  
そこから どんなシーンをどんなレイアウトで描くか 全く 解らなくて  
「こんな感じ」という ラフな絵 というのが また 恐ろしく 下手で

モノの形なんかも全部 写真とか それを他の人がどんなイラストで表現してるのかとか  
参考にしないと 全く描けない。

だけど 描くものが決まって ある程度 参考資料も集まって  
下絵ができて色なんか塗りだすと  
ああ やっぱり お絵かき 好きだなあ・・・と 思い  
楽しいから また次も描こう とか 性懲りもなく思うのでした。

おめでとう。誕生日。

あなたが生まれてくれて 良かったです。

ありがとう。



あー、運転手さん、〇〇までいくら？  
高いね～、じゃあ、△△の駅まででいいわ。  
息子のところ行くの。

離婚届をね、書き損じたってさ  
せっかく 前にサインしてやったのに 書きなおせて。  
どうせ 別れるんだし 別に 届が汚れてたって よさそうなもんなのよねー。

別れるとかどうの言って 喧嘩してんのに  
付き合ってるっていうかね、離れないのよ、どういうものなんだか？

別れてね、息子は××あたりに 引っ越して 商売始めるって 決めたのよね  
あの ヨメも引越して 近くに住むって言うの。  
良く分からないわよねー。

この 寒いのにわざわざ 出向いてよ サインし直そうってのに。  
じゃあ 別れなきゃいいんじゃない...

えー、もう着いたの？  
いいわー、もう 寒いし歩くの邪魔くさいし  
〇〇まで お願いね まだ しゃべること残ってるし



おかあさん、おかあさん  
こっち見てるの 何て生き物？  
見なくていいのよ  
あれは にんげん。

\*

カンガルー母子の画像を観ていたら  
こんな風に見えました。

素直に守り守られなくなって  
愛し愛されなくなった いきものは  
これからどうなっていくんだろう。

ボク カンガルーになりたかった...と言う  
心 傷ついた少年が出てくる漫画が 学生時代すごく好きで  
その漫画の主人公たちと、今は亡きその漫画の作者さんのことを想うと  
今でも 切なくて 懐かしくて たまらなくなります。





こんなにキツイなんて思わなかった。

「この区域 担当ですからね。よろしく」  
大丈夫？と聞きながらずっしり重いチラシの束を渡されても  
にっこり笑って、もちろん大丈夫ですっ、と答えた。  
ダイエットウォーキングに給料がつくのだ。おいしいじゃあないか。  
渡された予定表に、自分の名前があった。  
何十棟もあるマンモス団地だ・・・・。

一度目のチラシ配りは集合ポストでよかった。  
戸建の家を見落とさないよう地図を見ながら回るより、効率もいい。鼻歌交じりだ。  
しかし・・・・。  
「2度目のポストイングは玄関ドアポストをお願いします」  
非情な声も、実際にやるまでは、まだそれほど重く響きはしなかった。

古い団地。  
一棟に上り口が3、4個。階段を数段上がり踊り場、向きを変えさらに数段上ると両方に玄関  
ドア。  
それが5階まで続くのだ。そしてそれが何十棟だ。  
ナイロンのスタッフジャンパーは暑い。  
昨日は今日ほど寒くなかった。、それでもだ。  
徐々に汗がにじむ。だんだん暑くなって、耐え切れず中に着たものを一枚脱いだ。  
更にスタッフジャンパーですら暑すぎて着てはいられない。汗だく。  
膝が痛む。  
足が笑う。

もうやだ。

むりっ。

この一棟で今日は終わりにしよう。

もう一段だって階段上らないぞ。

そうやって、上った最後の階段の最上階に そのドアはあったのだ。

おばあちゃんの手によると思われる貼り紙にはこんな風に書いてあった。

「のぼり〇〇段、下りも〇〇段 こんな最上階まで御苦労さま。いつもありがとう。」

新聞配達の人はこちらまで来るんだろう。牛乳の配達なんかも、ここいらでは利用されているよ  
うだ。

速達や宅配もやっぱりここまで上がってくるはずだ。

そんな汗水たらしている人への、ちょっとお茶目な気配りが

へとへとになった自分にも向けられたようで 何だか、妙にうれしかった。

面白いもの見つけた嬉しさ、話のネタを見つけた喜びも確かにあったけれど、それだけじゃない  
。

誰かが誰かをねぎらう言葉を見つけたこと、それがきつといろんな人の励みになっていること、  
それが伝わって、嬉しかったんだ。

今日は折角の休みだというのに、足はパンパンで、湿布だらけだ。

それでも、あの貼り紙のことを考えると口元が緩む。

そうだなあ・・・明日もできるだけは頑張ろうかな、なんて単純に思ってしまったのだった。

連絡が入った。

効率悪すぎるから、明日からはみんな集合ポストでいいそうである（涙）



イノシシ。

亥年の年賀状に使った絵です。

今朝の番組で イノシシ被害についてやっていて  
せっかく収穫を前にした みかん畑がズタズタに荒らされていたり  
根っこから掘り返された木を前に 農家の方が真剣に困っていることを  
話していた。

更に イノシシに襲われて 愛犬を亡くされた家族のコメントもあった。

山が減り、食べ物もなく 出てくるしかなかったイノシシに同情もされながら  
イノシシに殺られた「犬」は、他のひとからすれば たかが「犬」でも  
自分たちにとっては 「大事な家族」だったんだ・・・。  
そんな 話だった。

その日捕まった若いイノシシは 小さなオリの中  
柵に無茶苦茶に突進して ガンガン身体をぶつけていた。  
「こんな風に獰猛な生き物で・・・」と説明されていたが  
イノシシにとっちゃ 出たい一心なんだろうな、と思う。

今日 近くに電車で出かけたら  
駅近くの広場に こんな掲示があった。(うろ覚えではあるが)

「ハトにエサをやらないでください  
あなたのその行為が街を汚します  
ハトはそのことを知りません」

どんなひとが考えた文なんだろうな。  
言いたいことが溢れて書き切れなかった感じ。  
なんだか味のある掲示物だった（の割に 「うろ覚え」）。

前はたくさんいた ハトが  
今日は一羽もいなかった。



「できの悪い子ほどかわいい」なんて親に言われても  
何だか嬉しくなかったが  
まあ、姉妹で較べれば 確かにデキの悪い方だった。

それでも 結構不思議な仲良しで  
(今思えば 赤面ものだが)  
姉はその才女揃いの学校に 私の描いた下手くそな漫画を持って行っては  
誰とはなしに見せびらかし

私は私で、  
姉の通う、そのお嬢様学校の友達や、  
近くの男子校の賢い坊ちゃん仲間で行っている趣味のバンドのライブに、  
狭い公立校区内でぶらぶらするしか遊び方を知らないような私の友達を  
引き連れて応援に行った。  
いやはや、思い出すと なかなかこっ恥ずかしい姉妹であった。

絵と何の関係があるのかというと  
これは WEB上の文字制限付き創作バトルで大いにコケた自作の  
後から描いた挿絵だからです。  
お題は「マフラーを巻いた女の子が・駅で・特別な日に」でした。  
できの悪い子ほど可愛い・・・かどうかはともかく  
まあ、どの子(作品)もそれなりに愛着はあったりします。



運転手さん 急いでっ！！  
言葉の端っこが トゲトゲしてる。

乗り込んできたのは なんてことない 近隣のごく普通の住宅地。  
行き先もまた となり町の駅から 少し先の住宅地。

ちょっと そぐわない感じがするのは  
女性の化粧と服装のせいだろう。  
若い子が街中を歩いていたら気にも留めない 流行りの格好だけど  
ちょっと年上のおねえさんだ。

時間を始終気にしている様子で  
ミラーに映る表情は かなり険しい。

おおざっぱなルートを言って あまり慣れてないことをほのめかす。  
「仕事始めたてなんでー」なんて のんきな言い方したら  
キレちゃいそうな雰囲気だ。

近くまで行ったら 言うから。  
とにかく 急いで！！

年下の女性だろうが お客はお客。  
覚悟はしていたけれど ものの言い方にちょっとひっかかる。  
まだまだ 修行が足りんなあ・・・。

急ぐ先はやっぱり 狭い道を入った住宅地で  
どうやら 勤め先のスナックだ。

出勤時間に遅刻できない、そんな事情のよう。

くねくね カクカク

精一杯急いでも

スピード出せる道じゃない。

それでも やっとたどり着く。

イライラした表情のまま

「待ってて!!!」

と 転げるように 店に飛び込んでいく。

遅刻だったら こっちにクレームだろうか。

料金踏み倒されちゃうだろうか。

待つ時間は長く感じる。

やっと女性は店から出てきて 料金を払う。

タイムカード、間に合ったみたいだ。

「ありがとう」

やっと笑顔になったそのひとは

乗車した時より ずっとずっと美人に見えたそうさ。



ずいぶんと ばらばらな内容で  
まとまりのない 絵柄ですが

読んでくださって（観てくださって）ありがとうございます。

描きためたものも 残り少なくなってきました。

ぼつぼつ溜めて また 次の1冊を作りたいと思っています。

（絵は 戌年の年賀状の絵です。）



## 絵を描くひとになりたかった II

<http://p.booklog.jp/book/27368>

著者：すずはら なずな

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/nazunasuzuhara/profile>

発行所：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/27368>

ブックログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/27368>